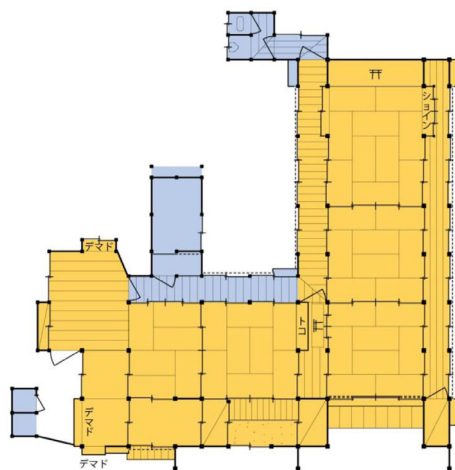
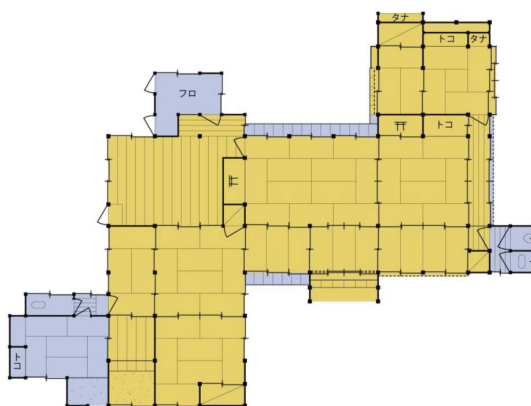


■ 坊舎の現況図

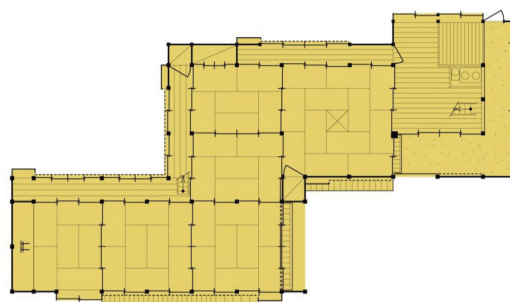
楞嚴坊



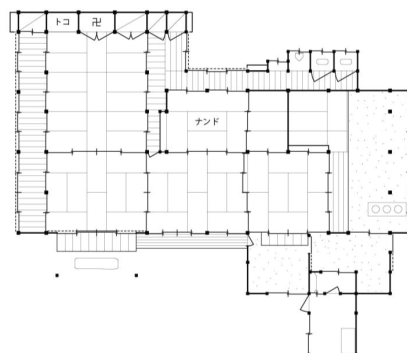
浄境坊
19世紀後期



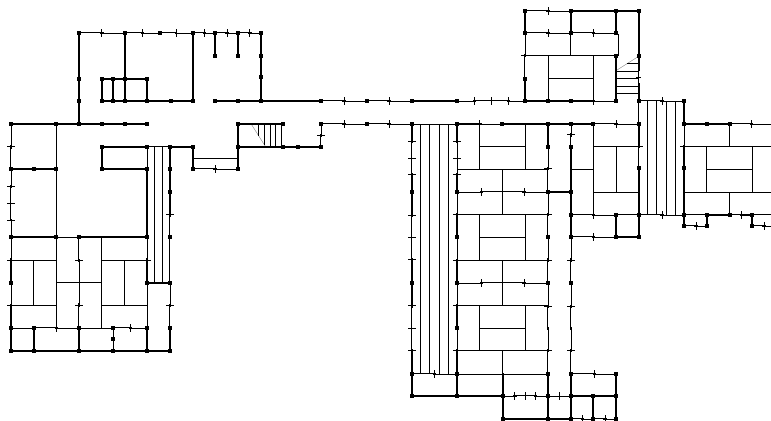
財蔵坊 (添田町歴史民俗資料館)
19世紀中期



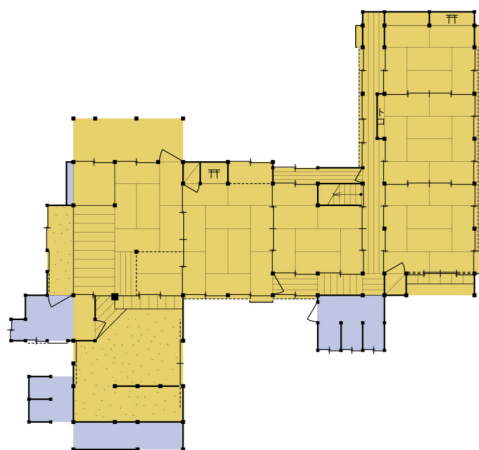
増了坊
19世紀中期



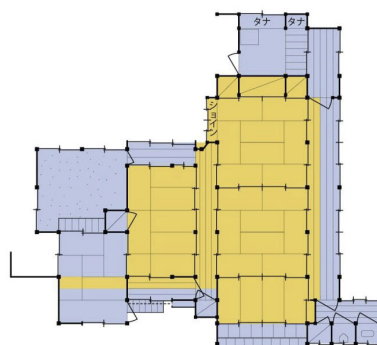
了乗坊



松養坊
19世紀前期



守静坊
文政6(1823)年以前



凡例

- 復元平面図に示される建築物の平面※1
- 増築された平面※2

※1 『山伏の住む英彦山』の復元平面図に示される建築物の平面を対象
(後世に改変された部分を含む)

※2 『山伏の住む英彦山』の復元平面図に示される建築物の平面以外を対象

5-2-2 活用の拠点

(1) 花駅（旧英彦山小学校）

【主な構成要素】

山伏文化財室、昆虫展示室、ギャラリー、
添田町観光ガイド英彦山総合案内所

【特性】

旧英彦山小学校の校舎にスロープカー花駅が併設され、
展示スペースや案内所の機能を兼ねた、ビジターセン
ターとして利用されている。



山伏文化財室

■現状

○史跡英彦山の歴史文化等の基本情報を伝えるガイダンス機能が不足している。

■整備方針

○史跡英彦山の価値をわかりやすく伝えるガイダンス機能の整備を行う。

○指定管理者制度を活用し、内容を常に充実・更新するための仕組みとルールづくりを行う。

□整備項目別計画

案内・解説施設

○展示内容に合わせた分かりやすい解説の整備を行う。

○誘導サインを整備する。

公開活用および そのための施設

○休憩スペースを充実させる。

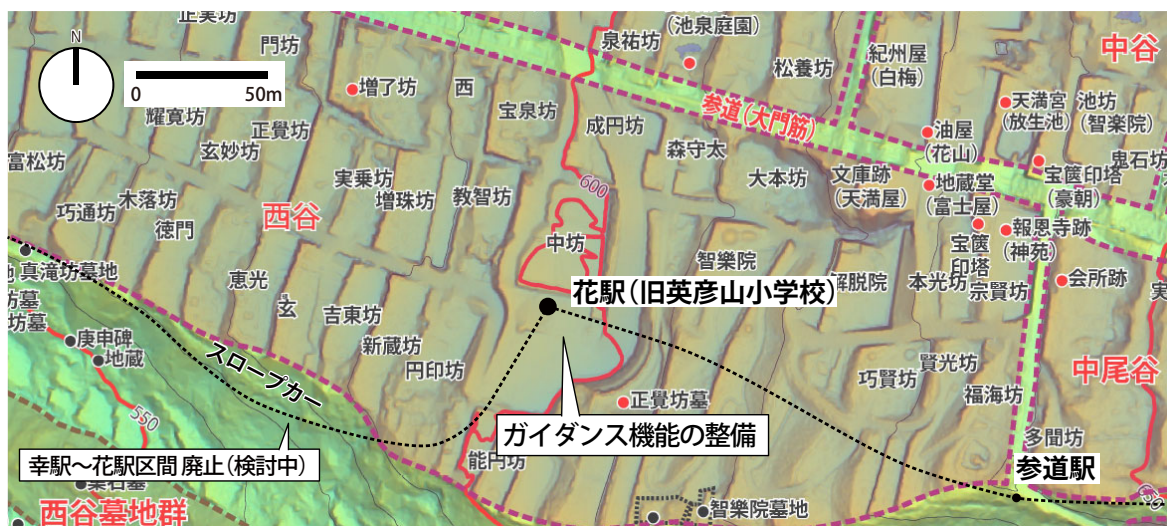


図 5-13 活用の拠点配置図（花駅（旧英彦山小学校））

(2) 英彦山町

【主な構成要素】

富士屋旅館、花山旅館

【特性】

旅館や土産物屋が立ち並び、参詣者で最も賑わった町溜であった。神幸祭神輿休めの場所。



花山旅館

■現状

○旅館としては使われておらず、一部が売店となっている。

■整備方針

○所有者と連携し、将来的に観光拠点として利活用できるよう協力を求める。

□整備項目別計画

案内・解説施設

○サインを整備する。

施設の活用

○将来的にガイダンス機能を持つ観光の拠点として利活用できるよう協力を求める。

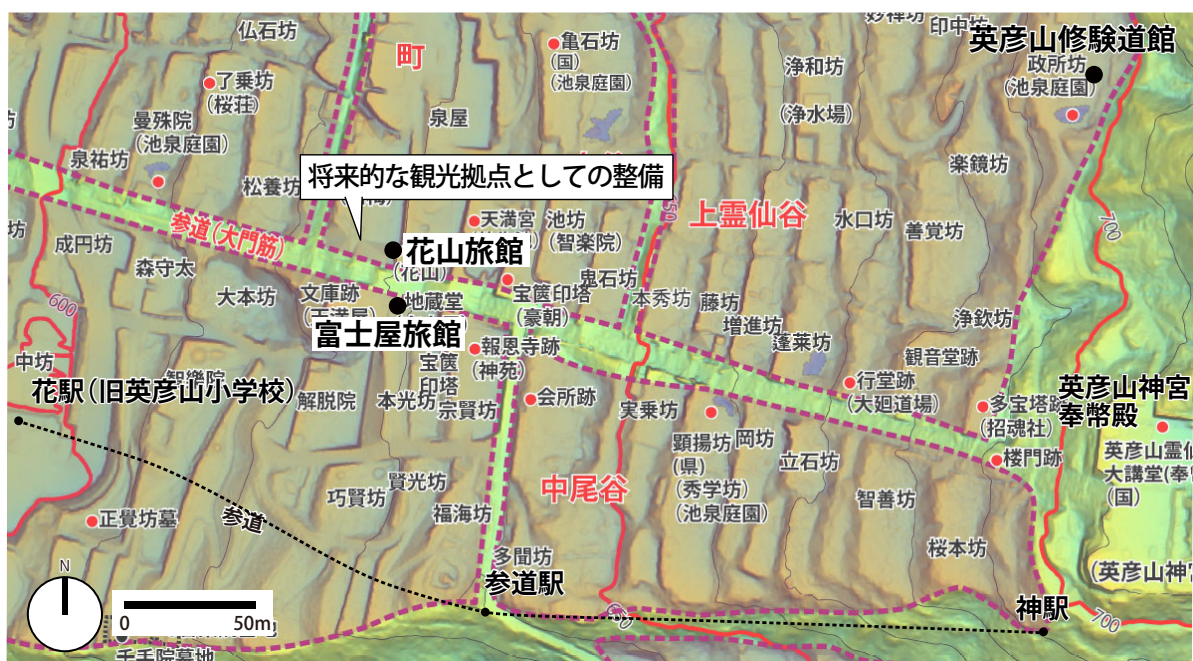


図 5-14 活用の拠点配置図（英彦山町）

(3) 英彦山修験道館

【主な構成要素】

英彦山修験道館(添田町埋蔵文化財収蔵庫)

【特性】

文化財出土品の収蔵庫として設けられた。現在は文化財の展示施設としても公開されている。



■現状

○英彦山から出土した文化財の収蔵だけでなく、展示施設としても利用されている。

■整備方針

○収蔵機能を中心とし、外観の周辺との調和を図る。

○展示機能は花駅(旧英彦山小学校)に集約し、展示内容における連携体制を図る。

□整備項目別計画

案内・解説施設

○サインを整備する。

施設の活用

○文化財出土品収蔵庫としての機能を充実させる。

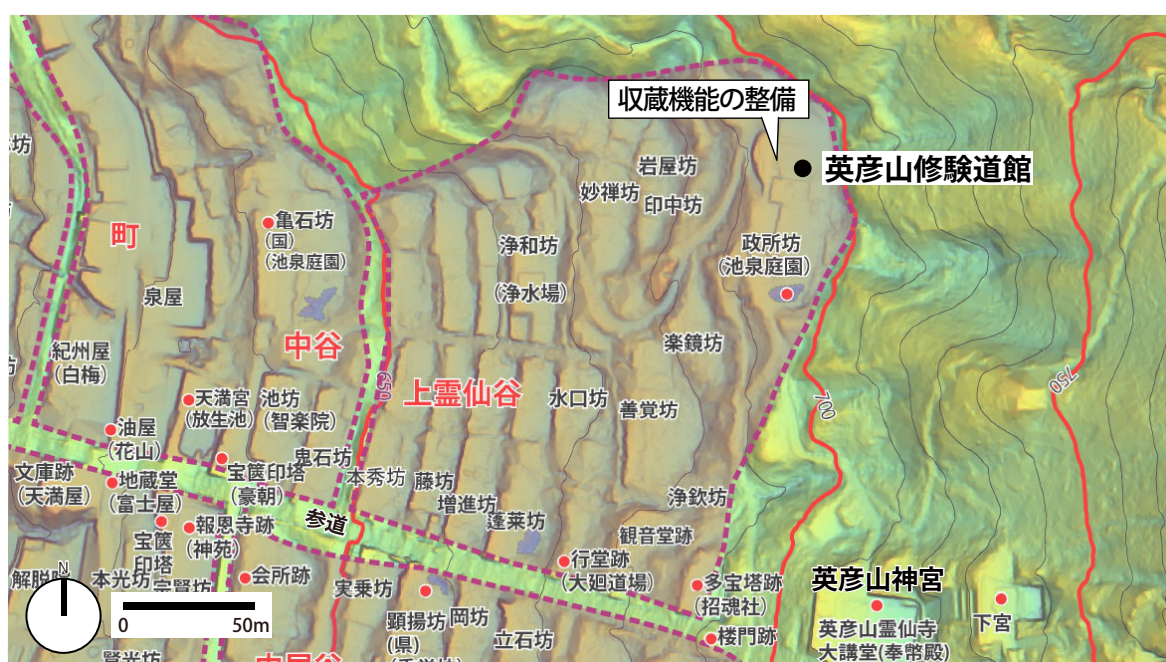


図 5-15 活用の拠点配置図(英彦山修験道館)

(4) 銅鳥居周辺駐車場

【主な構成要素】

駐車場

【特性】

史跡英彦山の登山口である銅鳥居の南側に整備された、来訪者用の駐車場。



■現状

- 導入部として史跡英彦山の全体構成を解説する案内サインがない。
- トイレ等の便益施設が不足している。

■整備方針

- 史跡英彦山の全体構成が理解できる解説板の整備を行う。
- 便益施設の整備を行う。

□整備項目別計画

案内・解説施設

- 史跡の解説サインを整備する。
- 誘導サインを整備する。

公開活用および そのための施設

- トイレや休憩所等の便益施設の充実を図る。



図 5-16 活用の拠点配置図（銅鳥居周辺駐車場）

5-2-3 主動線

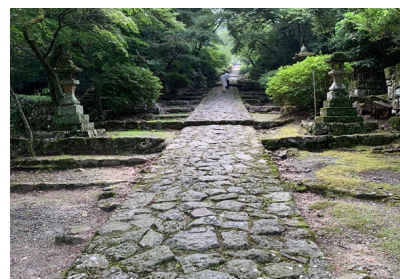
(1) 参道（境内と門前領域）

【主な構成要素】

参道(境内と門前領域)

【特性】

銅鳥居から奉幣殿までの間、勾配のある石畳から途中で石階段へと切り替わる。両側には坊舎跡が立ち並ぶ。



■現状

- 「添田町歴史的風致維持向上計画」（歴まち計画）として整備が進められている。
- 参道に設置されているむき出しの配管や消防設備が、景観と調和していない。



防火設備

■整備方針

- 見学動線の整備を行う。
- 動線の保存と確保における管理体制の組織とルールづくりを行う。

□整備項目別計画

修景および植栽

- 樹木の剪定や草刈り等を行い、修景を図る。
- 既存設備の色彩については、緊急時にその機能を阻害しない事を前提とした処置の工夫を行い周辺との調和を図る。

案内・解説施設

- 誘導サイン等を整備する。

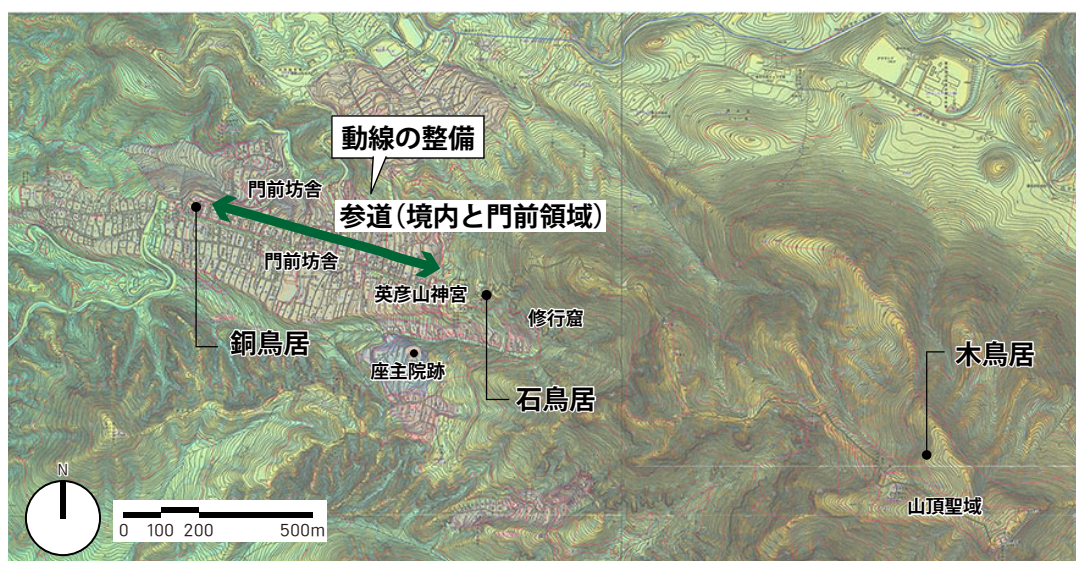


図 5-17 主動線配置図（参道（境内と門前領域））

(2) 登拝道（山中行場）

【主な構成要素】

登拝道(山中行場)

【特性】

石鳥居から山頂聖域の木鳥居までつづく、英彦山の自然を楽しめる登山道。



■現状

○九州自然歩道として整備が進められている。

■整備方針

○見学動線の整備を行う。

○動線の保存と確保における管理体制の組織とルールづくりを行う。

□整備項目別計画

修景および植栽

○樹木の剪定や草刈り等を行い、修景を図る。

案内・解説施設

○誘導サイン等を整備する。

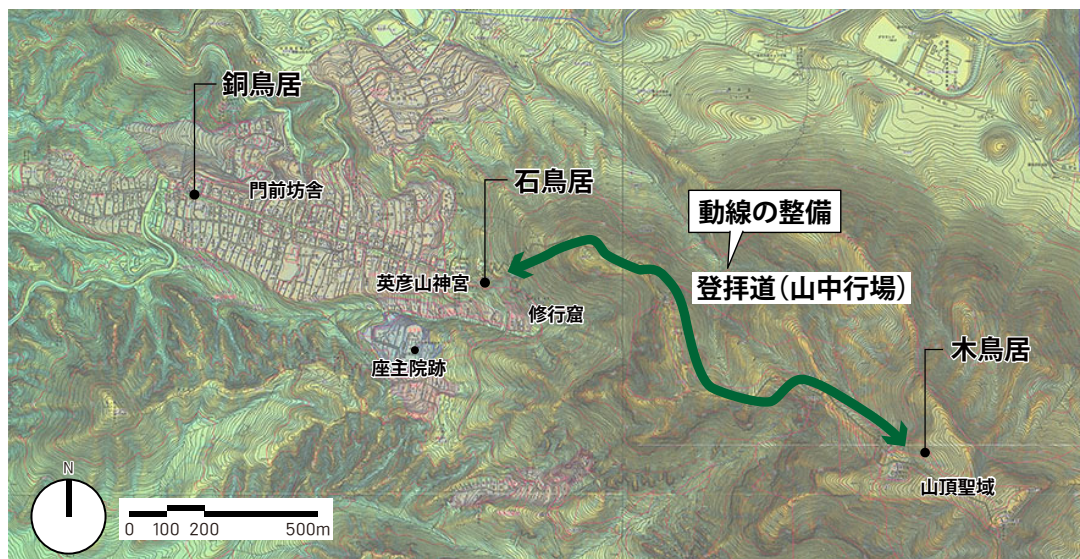


図 5-18 主動線配置図（登拝道（山中行場））

5-2-4 目的別動線

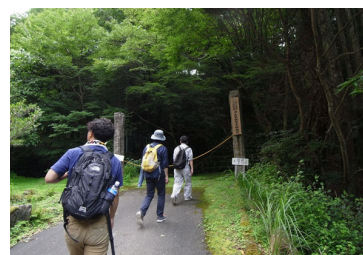
(1) 参道から座主院跡に至る動線

【主な構成要素】

参道から座主院跡に至る動線

【特性】

宿坊跡が立ち並ぶ参道の途中から南方向の脇道に入り、座主院跡へとつづく道。



■現状

- 既に舗装の整備がされている。
- 誘導・解説サインがない。

■整備方針

- 見学動線の整備を行う。
- 動線の確保における管理体制の組織とルールづくりを行う。

□整備項目別計画

修景および植栽

- 樹木の剪定や草刈り等を行い、修景を図る。

案内・解説施設

- 誘導サインや史跡を説明する解説サインを設置する。

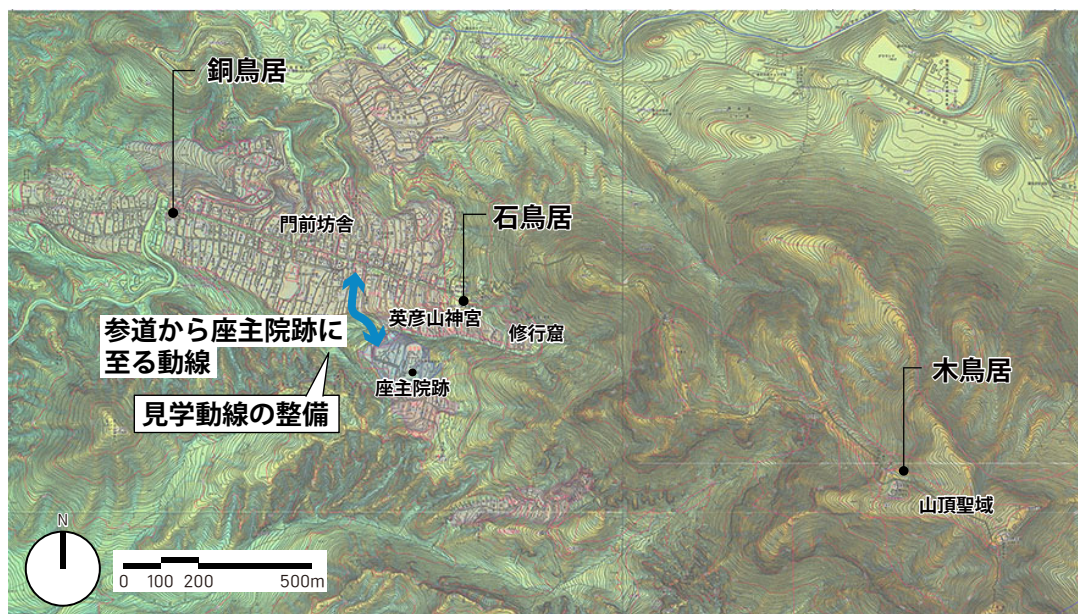


図 5-19 目的別動線配置図（参道から座主院跡に至る動線）

(2) 英彦山神宮から修行窟に至る動線

【主な構成要素】

英彦山神宮から修行窟に至る動線

【特性】

石鳥居から南東方向へ進み修行窟に向かうルート。山中で足元が滑りやすく、史跡への毀損の恐れもある。



■現状

- 石積みが崩れかかっている箇所がある。
- 見学動線がない。
- 史跡を説明するサインがない。



既存の木床

■整備方針

- 見学動線の整備を行う。
- 動線の確保における管理体制の組織とルールづくりを行う。

□整備項目別計画

保存

- 石積みを保存修理する。
- 防犯カメラや消火器の設置等適切な手法で管理を図る。

修景および植栽

- 樹木の剪定や草刈り等を行い、修景を図る。
- 窟周辺を横断する防火用水配管における修景において、緊急時にその機能を阻害しない事を前提とした処置の工夫を行い周辺との調和を図る。

案内・解説施設

- 史跡を説明する解説サインを設置する。

公開活用および そのための施設

- 動線を整備する。
- 足場が悪い箇所や、石積みの保護が必要な箇所に木路及び木床を設置する。

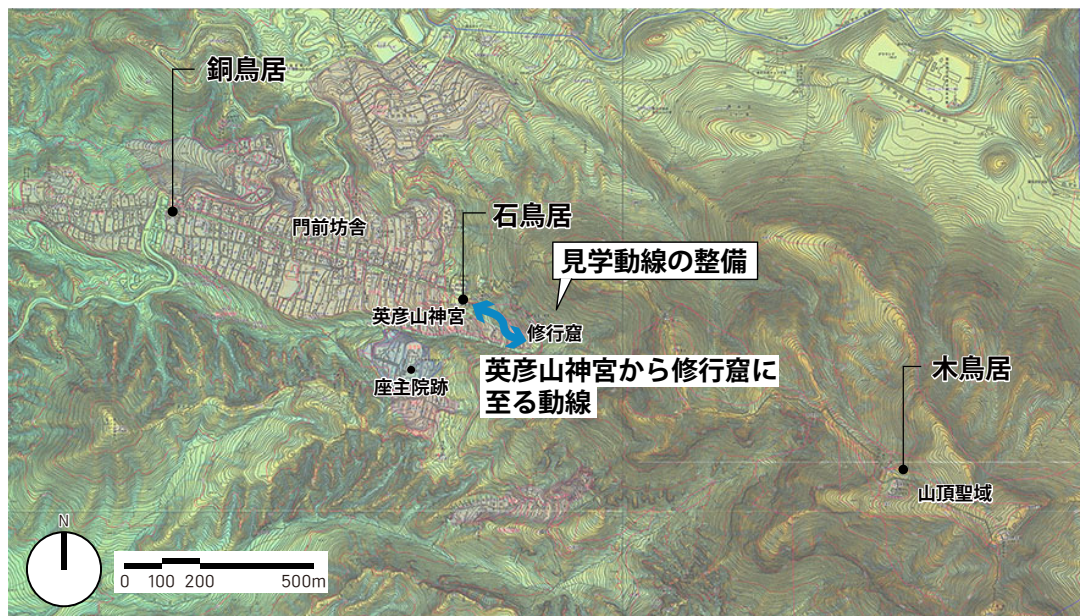


図 5-20 目的別動線配置図（英彦山神宮から修行窟に至る動線）